



ながま

青森県立大湊高等学校 東京同窓会

第31号

平成23年度
2011年6月25日発行



近況雑感

会長 佐々木 彦藏(7期)

三月十一日午後、確定申告書提出のため自転車浦安市役所へ出かけた。
用事を済ませ隣の図書館に立ち寄り、毎月ここで読む月刊誌『選択』を手にし、ソファに腰を下して間もなくグラツときた。最初は、「オ、地震だ」と軽く思ったが、揺れがどんどん強くなる。館内の太い柱がさしみ出し、天井が落ちるのではとの恐怖感が襲ってきた。でも金縛りにあったようで動けない。何秒経ったか分からないが、少し揺れが小さくなった気がして玄関へ走った。
急いで家に向かったが、途中、道路に亀裂が走り、水道管が破裂し水が噴出していている所が数か所あった。着いたわが家は、駐車場のコンクリートにヒビが入り、黒い水が流れ出していた。向いの家は玄関先のタイルが大きく割れ、猛烈な勢いで土砂汚泥が噴出していた。

液状化の町で思う

今回の地震、浦安は震度5強



「新浦安駅前の電話ボックス」

であったが、「液状化」で全国に名前が知れわたってしまった。その浦安で町内会長になって四年目になる。道路一本隣のマンション群は、11階建てが十棟以上もあって千世帯を越す大きな町内会だが、当方は世帯数二百戸の小さな町内会である。この日から、断続する余震におびえながら、町内会長として初体験の仕事が始まった。

町内に住む市議会議員から借りた選挙用のスベリカーを自転車に積んでの広報活動、緊急回覧板の作成、備蓄の水と食料の配布、仮設トイレ組み立て、防犯パトロール：最初の何日かは余震もひどく、トレパンに靴下を履いたまま布団に入った。
眠れないままつけた「ラジオ深夜便」から流れる「アンパンマンのマーチ」に涙が止まらない夜もあった。テレビから流れる大津波の東北の惨状に息を呑み、何度涙を拭いたことだろう。「天罰と、うそぶく知事の冷たさよ 父母流されし 子等いかに聞く」：怒りを下手な短歌に込めてもみた。
以来、約三ヶ月近くが過ぎた。余震の回数も減り、水道・下水管も復旧し、余震でもないのに身体が勝手に揺れを感じることも無くなった。
「修羅場では人間の本性が現れる」という言葉があるが、今回の震災を通じて色々なことを学んだ。液状化は、地図の上に線を引いたように出現した。線上にあった家は、損壊したトラック一杯分の土砂が吹き出したが、隣の家は被害無し、なのに隣家の窮状に声もかけない家。ガス復旧見込みの回覧板を持っていったら「うちはオール電化なので関係ない」とケンもホロロの人：世の中いろんな人がいるもの。大都会ならでは人間関係の希薄さなのか。勿論、この反対の美談は何十倍もあった。

三月、母校を卒業して大都会に出てきた新卒者の皆さんも、いろんな壁にぶつかって悩んでいるのではないだろうか？
いろいろな体験が、すべて自分の成長へのコヤシになるという気持ちで、時にはこらえ、時には発奮して頑張つて欲しいと思う。
(23・5・27記)

復活



校長 工藤 哲也

同窓会の皆様には、日頃より母校大湊高校の教育活動に対し、様々な形で御支援と御協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。また、社会でますますのご活躍に対し、敬意を表させていただきます。どうぞともにお喜び申し上げます。
さて、私は大湊高校着任以来三年目を迎えました。その間、杉山徹同窓会長、佐々木彦藏東京同窓会長をはじめとする同窓会や佐々木正後援会理事長をはじめとする後援会の方々には多大なる御支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。
着任以来、地域に信頼される大湊高校の復活を目指して、本校教職員と一致団結して、全力で改革に取り組んでまいりました。その内容の一端を同窓会の方々にご紹介させていただきます。
まず取り組んだのが、授業交換です。少人数の生徒にもきめ細かく対応するという総合学科においては、授業交換は至難の業です。しかし、教務部が研究

を重ねた結果、現在は、ほぼ100%実施できるようになり、毎週変更時間割を作成しています。地域や中学校にも授業を公開し、多くの研究授業を重ねて、教師の指導力の向上にも努めてまいりました。
一昨年度六名を数えた退学者が、昨年度はゼロでした。一学年二百名が全員そろって二学年に上がりました。特別支援教育研修会を開催し、発達障害や適応障害をもつ生徒に対して、粘り強く指導してきた結果だと思えます。生徒の欠席率も二割ほど改善しました。
部活動においては、一昨年度、硬式野球部甲子園予選決勝進出を果たし、多くの同窓生の方々から応援や激励をいただきました。今年度は陸上部男子が県高校総体三連覇というすばらしい快挙を成し遂げました。またヨット部女子は、地元大湊で行われた東北大会で、上位入賞を果たし、男子陸上部とともに沖繩インターハイに出場しました。昨年度部活動加入率も一学年が八十九%と、各部ともに部員が増えています。盛り上がりを見せています。
進路面では、昨年度から土曜講習(年間七回)や東北大学オープンキャンパス(五十八名)などを実施し、進学意識がどんどん高まり、現二、三年生ともに校外模擬試験で最近にない成果を上げています。また、厳しい就職状況に対応するために、管内十五社の企業訪問も昨年度から実施しました。このように、名門復活に向けて、学校の教職員、生徒、保護者ともに力を合わせて大湊高校を盛り上げていきます。

最後に、同窓会の皆様方の活躍をお祈り申し上げますとともに、母校へのより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。
◆二つ目にはやはり大高祭のネタ。一年限りのつもりが四十年以上続いているのだから、言い出さずには感無量。青臭い事を言えば、力を合せば何でも出来るんだと実感したイベントでありました。ここは敢て伝統を創つたと言わせて頂きましょうか。
◆どうにもやりきれない事もあります。筆者は大平中の第一期生の学校ですが、出来立てホヤホヤの学校ですから、当時はまだ校歌が無く、創立記念に奉祝歌を作る事になり、歌詞の募集に応募したら選ばれ、卒業アルバムに作詞者として名前が載りました。傍目からは名誉な事でしょう。しかしその歌詞は自分が書いた詞とは全く別物でした。どうしたのも生徒作詞という事にしたかったのです。以来この嘘に苛まれています。
◆それはそれとして、今は「良き人生哉」と言えなくとも、死ぬ時に後悔したくないというのが信条ですから、これからのための時間だと考えている昨今です。

拙語

一号から掲載されているこの管見拙語であるが、個人的な話題がかなりあります。その例に倣って個人的な事を書きます。これまでの自分を振り返って見て、現時点では、総じて自分の人生が成功だとは思えませんが、一つ二つ納得出来るものもあります。
◆一つには小学校五年六年と二年間続けた白鳥の観察。秋から春に掛けての数ヶ月、朝夕二回勿論正月休みなどなく、一日も休まず続けられたから良しとしている。対馬昭三先生、古川博先生、田名部の三上士郎先生、色々教わりました。それにしても、何度か見せて頂いた三上先生の膨大な鳥の剥製コレクションは今どうなっているのでしょうか。
◆二つ目にはやはり大高祭のネタ。一年限りのつもりが四十年以上続いているのだから、言い出さずには感無量。青臭い事を言えば、力を合せば何でも出来るんだと実感したイベントでありました。ここは敢て伝統を創つたと言わせて頂きましょうか。

東日本大震災

昨年篤志家の役員から会章マーク入りのラベルが貼られた銘酒『酔仙』が新卒会員を除く出席者全員にお土産として配られ、賞賛を浴びておりました。(写真 3ペーシ)

この酔仙酒造は岩手県陸前高田市に位置し、本社事務所、倉庫棟及び旧守衛所は「登録有形文化財」指定の文化遺産であった。それが東日本大震災の大津波に襲われ消えてしまった。しかも三月十一日は、このシーズの酒の仕込みを終え杜氏が蔵人達を労う行事「甕割り(こしきだおし)」が四時から予定されていたという。また、東北の太平洋側は京や上の方の文化の影響を受け、土地に根付いた文化が残っている地域であるが、ほぼ全域被災しました。

仙台と水戸の同窓生から今回の大震災について生の声を寄せて頂きました。再建・復興が一日でも早く進むことを願って、ここに掲載します。

自然を畏れる

星 登美雄 (第9期)

東日本大震災から二ヶ月になりました。巨大地震による大津波襲来の様子や被害の惨状については、テレビや新聞その他の報道によりすでにご存じでしょうが、五月十一日現在死者行方不明者は合わせ二万五千人に迫っており、余震はまだまだ止まず原発事故の収束も先が見えない

不安が続いています。地震発生後、通信手段の回復とともに青森や関東方面在住の同窓生の皆さんから、安否を気遣う電話や激励の手紙を頂戴し誠に有難うございました。仙台に住んで五十余年、大きな災害はチリ地震津波、十勝沖地震(大湊帰省中)宮城県沖地震などを経験しましたが、今度のよりな広範囲で甚大な被害はこれまでの比ではありません。我が家の被害は、強烈な揺れで棚の物が落下し器物の破損はあったものの家屋に被害はなく高台のため津波の恐れもありませんでした。しかし次女の嫁ぎ先が仙台平野の海岸寄り、数百人の死者が出た荒浜と閉た(ゆりあげ)の中にあつたため、二日近い津波で住居の一階が浸水してしまいました。家には子供三人と次女の義父が居ましたが、翌日救助隊の舟に救出されました。

その後長女一家と共に我が家に避難して、総勢十三人と犬三匹兎一匹の避難生活が始まりました。電気水道ガスは止まりましたが、三十年来続いていた家族共同のキャンプ用具を活用した共同生活で何とか乗り越えられました。先にライフラインが回復した長女一家が帰り、学校が始まるためアパート入居を決めた次女一家は、四十日ほど居て移って行きました。浸水した次女の家には一ヶ月ほど離れた海岸の防風林の太木や瓦礫、田畑の泥が押し寄せており、その撤去作業はまだ続いています。被災地に入るとテレビで見ていたのと違うのはその強烈な悪臭で、これに耐えての作業になりました。一階にあったものはすべて廃棄し、五月の連休は床板をはがして床下に堆積した泥を取り除きました。あとは高圧洗浄と消毒後、業者による修復工事に入ります。一家が自宅に

戻れるのは年末ごろでしょうか。古来、仙台平野にも約二百年周期で津波が襲っていたそうぞで貞観(じょうがん)十一年の貞観津波が国府多賀城まで到達していたことが最近の調査で裏付けられています。長女の家の近くには津波が来た地点を後世に伝えるために、元禄十五年に祠られた浪分(なみわけ)神社がありました。地元の人はその長い周期のため津波は来ない、り返されていた天災を忘れられるどころか知らず知らずのうちに今度の災害で、巨大な自然の力の前で人間の生活基盤のろろさを思い知らされ、自然は征服ではなく畏服すべきものであることを痛感しています。



「仙台市・浪分神社」

東日本大震災に想う

— がんばっぺ茨城 —

太田 功 (第15期)

三月十一日午後2時46分、東北・関東の太平洋沿岸を襲った世界最大級M9の未曾有の大地震と津波は、死者一万五千人、行方不明者一万人、住宅被害八万棟、住民避難二十二万人の発

生を齎した。あの恐ろしい巨大地震から早三ヶ月が過ぎた。そして、未だに一万千名を超える人々が過酷な避難生活を余儀なくされている。

被災地茨城県も死者二十三人、行方不明一人、住宅被害九千棟、住民避難五万人を数え未だに三百三十人が避難生活をしており、震災の傷跡が如何に大きかったかが思い知らされた。

巨大地震の影響が最も大きかった宮城県、岩手県そして原発事故で放射線が飛散した福島県は連日大々的に報道された。一方茨城県の被災状況もそれは大変な状況に変わりはないが、報道内容は極めて些細なものとしか受け取れなかった。災害規模の大小の差こそあれ同じ被災地には変わりはないのにと痛感したものである。

当日、私は、茨城県ひたちなか市のパソコン教室で「職業人講話」の授業中であつた。突然の大揺れで教室内は一瞬騒然となり、私は咄嗟に建物から即座に離れたよう生徒全員を教室外の安全な場所に避難させた。その間僅か一分、しかし揺れは一向に治まらず、長い立て揺れと横揺れが断続的に続いた。生まれて始めて経験した大地震であらう。家族との緊急連絡も全くつかない状況が延々と続いた。余震はその後10〜20分毎に繰り返し起こった。最初は震度6強その後震度4〜6弱で何度も繰り返した。

生徒を全員帰宅させてから、私は夕方5時前に教室を出た。通常30〜40分で帰れるところ、その日はあちこちで道路が寸断、橋の崩壊等もあり、迂回して帰ったが、大渋滞に加え、停電のため信号なしの真つ暗道を走り続け、23時過ぎに漸く帰宅した。信号が燈つていたのは唯一水戸駅周辺(自家発電供給)のみであつた。

真つ暗な家に入るなり、荷物

は大散乱、懐中電灯で辺りを照らしたが、足の踏み場もない。壁は剥がれ落ち、クロスは縦横に無数の亀裂が入り、家財、食器類に加え装飾品、置物も全て破損、照明器具も飛び散り、それはまさしく異常事態そのものであつた。

翌日、外回りを点検、屋根瓦は約三分の一が損壊、塀は傾斜、外壁のタイルは十数枚が剥がれ落ち又数枚がびび割れ甚大な損傷も被つたが、先ずは家族ともども無事でいられたことにホッとする思いであつた。津波で丸ごと家をつた人のことを考えれば、まだ災害の規模は小さくて済んだと思つている。余震はまだまだ一年位は続くことであり、全く予断は許さない。また、同じような地震が再び来たら今度はそれは全壊も免れないと思つている毎日である。

ライフラインの復旧にも実には水道が三日間、電気は五日間要した。加えて福島原発事故も重なり、混迷の度は究極に達した。

福島県は茨城県の隣接であり、連日の報道のたびに肝を冷やしたものである。放射線の風評被害は、日増しに緊迫の度を増し未だに真の原因が分からずじまいである。さらに報道内容にも疑問視せざるを得ない部分が多々見受けられる。茨城県内の放射線量は0.12強と未だに隣県の倍以上のマイクロシーベルトを観測し、農業・漁業に甚大な被害を及ぼすとともに経済生活にも極めて大きい衝撃を与えている。

原発の半径20*、30*圏内の人達のことを思うと、他人事ではないのと思はれない。避難所生活を強いられないだけでも良いと思ふ。実は、私の家から30*圏内には東海村原発があり、何時同じような事故があつてもおかしくない状況にあつただけ



「震災後の水戸借楽園」

に、今回ほど地震の恐ろしさをまざまざと見せつけられたことはなかった。

連日、マスコミ等で被災地の復旧・復興状況が報道されているが、わが身を捨て日夜懸命に頑張っている人達の努力には頭が下がっていると思つていづばいである。実は三ヶ月前、三月十三日(日)に水戸借楽園の「梅祭り」に大湊高校東京同窓会のメンバー十数人が集い庭園内の「梅見の会」を計画していたが、残念ながら中止せざるを得なかった。借楽園をはじめ名勝史蹟の被害は極めて激しく、復興の見通しはたつていないが、皆さんが折角楽しみにしていた「梅祭り」だけに、来年は是非実現したい。借楽園の梅を始め観光名勝の「好文亭」「弘道館」「歴史館」そして「徳川記念館」などを拝観していただき、歴史の香り漂う茨城県の良さを是非実感してもらいたいと思つている。

大震災から早三ヶ月、一日も早い東日本そしてとりわけ茨城県の復旧・復興を切に祈願する毎日である。

【がんばろう東日本】
《がんばっぺ茨城》



恩師健在
大湊高校時代の思い出

我妻 茂巳

私が大湊高校に赴任したのは昭和三十八年の四月でした。年齢は二十七歳の時で若かった。当時高校は今の海上自衛隊の総監部の場所に木造の建物で、迷路のように釜臥山の裾野の傾斜に沿って建っていた。ポロ校舎であつてもあの十勝沖地震に耐えたのだから驚きだつた。当時の同僚だつた多くの先生方が鬼籍に入られて自分の今の年齢を改めて意識させられている。三十八年間の教員生活の中で二十代後半から三十代の前半の八年間であり随分と若さで生徒諸君とぶつかった。大湊高校の後は五所高、青西高と移つたが、その中で大湊時代が忘れ難い。昭和三十八年から四十六年頃で時代も日本経済も右肩上がり、米ソ対立、ベトナム戦争反対運動、大学紛争があらゆる所謂団塊世代の人達が大きい青春ぶつつけていた頃であつた。当時の生徒諸君も意欲も高く学校生活は楽しかつた。

夢中になつて遊びに熱中した。高校生になつて百人一首の上の句と下の句を通し歌意を学び、合せて古語文法を合せ覚えることに興味を持った。大学で国文学を専攻する契機の一つになつたのである。

さて、大湊時代の忘れられない思い出を二つ三つ挙げてみよう。春の芦崎湾の砂州でこの潮干狩である。毎年春になるとこれが楽しみであつた。一週間位浅利料理が続きうざりしたが、長谷川校長は剣道の達人であつた、その後に奈良岡校長が赴任し彼は日大時代競歩でベルリンオリンピックの選手であり大湊高校生に耐久遠足をさせるというイベントを導入し、学校と川内の町を往復させるということだつた。相当な距離で、未舗装の砂利道を生徒諸君は精力的に歩いた。学校祭では前夜祭と称しネプタ運行し学校から大湊駅までねり歩いたこともあつた。学校医に歯科の松島先生(お兄さんの方)が学期毎に診察して呉れていた。診察室(保健室)に一式の道具がそろつていて珍しいことであつた。



「大高時代の我妻先生と新聞委員会の面々(S41)」

みをもつた。彼は現在、山梨の勝沼に住んでいる。時折電話で連絡を取り合っている。大湊高校卒業生の今後の発展を祈念して居ります。

「青森物産ショップ むつ下北」開店

河野 崇章(第25期)



「店の外観と河野店長」

三月十二日、江東区亀戸三丁目(亀戸香取勝運商店街「JR亀戸駅徒歩8分」)に、下北半島の物産品を中心に販売するアンテナショップ「青森物産ショップ むつ下北」をオープンしました。忘れもしない大震災の翌日のことでした。二年前にむつ市に兄弟で立ち上げた「一般社団法人 北のまちふるさとプロジェクト」が商店会から運営を任せられたものです。下北半島と首都圏の交流を目指す事業活動に取り組んでいた私は江東区が進める商店街再生事業として整備中だったショップ計画にオブザーバーとして参加していました。これが縁でこの度の開店の運びになりました。

を看ることを理由に、永年勤務していた会社を辞め、実家のあるむつと東京を行き来するようになり、それまで故郷を顧みることもなく過ぎてきました。時間も重ねるにつれ青森県とりわけ下北地域の経済の疲弊をみるに至りました。やがて、ふるさと下北の振興に何か役に立つことが出来ないかと思うようになり、この一歩かと思つた結果が今回のショップの開店です。お店では下北地域で採れた農水産物や、それらを使った加工品を主に販売しています。埋もれている食材や商品を見つけて出して、都会の人たちに紹介したいと思つています。

- 東京同窓会この一年
- 22年7月10日 役員会 総会反省・欠席者へ資料発送等
- 22年8月28日 会議後下北沢音楽祭訪問
- 22年8月28日 納涼会・天王洲アイランド 役員・有志14名参加
- 22年10月3日 高総連パーベキュー大会 学校単位では初参加8名 国立昭和記念公園
- 22年10月23日 拉致被害者救出のための集い「特定失踪者大集会」11期生中心に10名参加
- 22年12月18日 新宿都庁舎前広場 忘年会・高輪「喜久寿司」役員・有志12名参加
- 23年1月15日 役員・有志新年会
- 23年1月15日 銀座「音楽プラザライオン」執行部会(事務局会議)
- 23年3月7日 総会・新役員候補選出等
- 23年4月16日 役員会 総会開催準備等
- 23年5月15日 役員会 総会案内発送等
- 23年6月11日 役員会 総会仔細確認
- 23年6月25日 当日の役割分担等
- 23年度総会 懇親会・新卒者激励会
- 機関紙「なにか」31号発行

大湊の祭りあれこれ⑨ 立花 善裕(第19期)

平成十五年に青森県立郷土館で「青森県山車祭礼調査報告書」を出した。これに大湊の祭も四ページ載つていて、「山車」の項に「下町(浜町)・稲荷丸(省略)より古い山車は船型ではなく、普通の屋台型の山車だつたという。」と書いてある。つまり下町(浜町)に稲荷丸以前に普通の山車があつたという。これが不可解。大湊に「普通の屋台型の山車」があつた事を伺わせる資料は大湊には無く、田名部の村上権兵衛の記録(田名部御用留・収録)に「元治元年(一八六四)に小川町で町印(山車)の人数や見送り幕水引き等を新調することに決まり注文したが間に合わず、大湊から借りて無事済ました」旨の記述がある。これが根拠だとすると、浜町の稲荷丸は嘉永四年(一八五二)には既にあつたのだから、この時代、浜町には稲荷丸と「普通の山車」の両方があつたということだろうか。稲荷丸に見送り幕は無いのに、田名部の山車に合う幕や人形があつたというのだからどこかに田名部の様な山車があつたのは確かであろう。

以下は何も裏付けがないので、仮説だが、浜町ではなく上町であろう。元来が安渡村々社、上町・兵主神社の祭である。村社のお膝元に山車があつたとしても不思議はない。

当時、田名部祭には安渡の人も人足に駆り出されておりました。田名部の山車は、見慣れた馴染みのあるものだらうから、当初は「普通の屋台型の山車」で、(4ページに続く)



「昨年配られた 銘酒「酔仙」」

「東京アンケート」生活

No.26

今年三月、われらが母校青森県立大湊高等学校を卒業し、進学・就職のため上京した同窓会新会員第六十三期生の皆さんに、初めての東京生活についてのあれこれを探ってみました。

(返信到着順)

質問事項

- ①東京(首都圏)で生活してみて一番ビックリしたことは何ですか?
- ②言葉の問題で悩むことはありましたか?
- ③上京後、クラスメイトに何回会いましたか?
- ④毎日の仕事(又は学校)は、きついですか?
- ⑤今の仕事(又は学校)をかわりたいと思ったことがありますか?
- ⑥田舎に帰りたいと思ったことがありますか?
- ⑦大湊高校時代で一番印象に残っていることは何ですか?
- ⑧母校の後輩に言いたいことは?
- ⑨いま一番会いたい人は?
- ⑩その他、どんなことでも...

粕谷 薫 (東京都世田谷区)

「ごんにく屋玉右衛門」
 ①暑い。②なし。③なし。④普通。⑤なし。⑥なし。⑦大高祭。⑧楽しめ。⑨地元の人。

犬塚 勉彦 (埼玉県飯能市)

「駿河台大学」
 ①人の多さ。建物の高さにびっくりしている。気温の高さにはそうとうキツイ。②特に感じなかった。③まだ1回も会ってない。④きついは思わず、これから自分のために頑張りたいという思いが強い。⑤逆にここでしっかり成長して青森に戻って

活躍したいと思う。⑥今のところは。いずれ戻って仕事をしたい。⑦部活もそうだけど、模擬店「すきや」は一生忘れられない。すべてが大切な思い出である。⑧今、何事にも積極的に取り組んで自分の道を自分の手でつかみとって欲しい。とにかく自分に負けず頑張ってください。⑨クラスメイト+後輩。そして石澤先生、小関先生。⑩今回の同窓会に参加出来るかまだわかりませんが、都合が良ければみんなに会いに行きます。

麦沢安季子 (神奈川県川崎市)

「東京エアポートレストラン」
 ①ホームレス。②なし。③いいえ。④きついで楽しい。⑤それにきつくて当たり前だと思ってる。⑥ありません。⑦今も楽しんでます。⑧部活頑張れ。⑨地元の友達。⑩とりあえず今は頑張ってます。

又村 彩 (千葉県浦安市)

「明海大学」
 ①特にないです。②新しく出来た友達になまってると言われました。③5回くらいです。④楽しいです。⑤ありません。⑥毎日思います。⑦やっぱり体育祭です。⑧高校時代は本当に幸せです。大切にしてください。⑨両親と妹、犬です。⑩匿名希望

匿名希望 (千葉県市原市)

「帝京平成看護短期大学」
 ①地震。②ありません。③0回。④楽しい。⑤ありません。⑥時々。⑦大高祭。⑧高校生活を楽しくしてください。⑨高校時代の友達。

市森文香 (東京都日野市)

「実践女子大学」
 ①自転車のよけかたがわからなくて、どうしようってなつて、けつきよく失敗。人でも同じ。よくお互いよけて、けつきよく失敗。むつではちゃんとよけられた。②なまるけど、悩むほどではない。みんなやさしい。寮にいたけど、みんな地方からきた人たちで、逆に方言でもりあがる。③2回。うれしすぎて、その日の夜はさみしさがまして号泣。④あまりきつくない。最近朝起きられない。⑤上京後すぐ、なんで来ちゃったんだろうと思つた。今はそうでもない。⑥何回もある。帰ることばかり考えている。⑦球技大会かな。先生達にはすごくお世話になった。感謝してる。⑧お母さん。またすぐ帰るからね。⑨お母さん。⑩寮は、最初、最悪だと思つた。けど、今は寮の子が一番仲良し。多い時は9人。2年けいやくだから、もう2年後さみしくなるねって話してる。東京がいやだと思つるのは友達がいなくてからだと思う。できればもう心配なし。あとはお金。今バイト探してる。奨学金の希望者ははやめにしておいた方がいい。はなれてから、いろいろとめんどうくさい。あと、自由がこんなにこわいものだと思わなかった。すべて自己責任。大事なことは掲示板を見て確認。高校では担任がしつこいほど説明してくれたのに、今はいつもハラハラしてる。

杉本開應 (千葉県市原市)

「帝京平成看護短期大学」
 ①すぐに金がなくなる。②会話の中で、なまりがでると笑われる。③一回④勉強が大変⑤ない。

(3ページより続き)
 しかもかなり前から、少なくとも浜町の稲荷丸以前あったでしょう。ところが海運で栄えた越後の桃崎浜から来た工藤金兵衛さんが故郷の「雨船」をモデルに稲荷丸を建造すると、やはり海運で栄える安渡には船型の方が相応しい、今度は船型と考へ、やがて大神丸の建造になるのも不自然ではあるまい。

それでは、先に出来た稲荷丸は二階建てなのに、なぜ大神丸は三階建てになったのか。話しは飛ぶが、上町の住人のブログ「のほんお散歩日記」に2009年8月31日、「山車出し」の写真が載つた。船体部分だけだった。この写真は、屋形は毎年分解し毎年組立てるといふことを示している。「毎年組立てる」という行為を通して、神のために常に新しいものを用意する、という意味を残していると思われ。そして、その神事のための乗り物は、祭のハレの期間だけ存在が許され、普段であ



「写真提供: のほん太郎」

毎日楽しいです。⑥ない。⑦部活動⑧とにかくがんばれば/進路達成をいのつていきます。⑨クラスのみんな。⑩看護師になれるようにがんばります。

ケの期間に存在してはならないものなのである。」(祇園祭・京都文庫3) 山車は本来毎年新たに造るべきものであるが、それではいろいろ大変なので全部あるいは一部を毎年組み立てる。これは京都や秩父に限らない。上町はこのやりかたを継承しているのである。明治七年に大神丸を建造した後も「普通の屋台型の山車」だった頃からそうだったように、解体保管してある二層の屋形部分をそのままのように船型になった台に(恐らく帆を立て、船に合うように手直しして)組立てることにした、のではあるまいか。(続く)

編集後記

ちつとも働かない永田町のお歴々に業をにやし乍らの編集文字だらけの見づらい紙面になりました。

来年は明るい話題を願ひ、明るい紙面作りを心掛けます。バックナンバーを捜していただけます。8号、9号、17号、お持ちの方、事務局か立花までご連絡ください。

tsujiam@cdskonet.ne.jp
 ■批判、感想、激励、企画、原稿、何でも事務局までお寄せください。

発行 青森県立大湊高等学校
 東京同窓会
 編集 立花 善裕 (19期)
 学芸デザイン 畑中 皓二 (5期)
 事務局 〒343-0031
 埼玉県越谷市大里

〒401-1441
 富澤 千里 (16期)
 ☎048-976-5192

印刷 エヌエデジタルファクトリー

東京へ下北を贈ろう!

なまこ・ほたて・菜の花商品・海産物全般

有限会社 すぎやま

青森・下北ふるさとの会

青森県上北郡横浜町字大豆田127

TEL0175-78-2080・FAX0175-78-6051

URL: http://www.rakuten.co.jp/aotoku/

E-mail: sugi@jomon.ne.jp

MyE-mail: toru0629jp@yahoo.co.jp

代表 杉山 徹 第22期生(同窓会長)



Travel Plaza SUN・SHINE
Aomori・Pref Yokohama

本州のテッパン下北半島

むつの便りは「やなぎや」のお菓子で...



- 田名部ばやし
- おおのみと
- フライボール
- 寒馬サブレ
- 他 銘菓各種

代表 柳谷 一雄 第5期生



緑町本店 むつ市緑町17-58

T.0175-28-2880

金谷店 むつ市金谷2-7-11

T.0175-23-6720

URL: http://o-yanagiya.jp